

2012-2013 シーズンの JBL 東芝ブレイブサンダース 躍進の検証

-2012-2013 シーズンと 2011-2012 シーズンの比較分析-

コーチング科学研究領域

5012A004-5 板倉令奈

研究指導員：倉石 平 准教授

【背景】

東京オリンピック後、ボールゲーム全般において国際競争が活発化し、バスケットボールにおいても多くの経験を積む必要性が高まる。それまでは大学生主体で行われていたリーグがメインであったが、1967 年からは企業チーム主体のバスケットボール日本リーグ(日本バスケットボール協会主催)が開幕し、日本のトップリーグの歴史が始まった。開幕当初から 1990 年代までは企業チームのみで行われていたが、2000 年代からはクラブチームの参入もあり現在の NBL の形態に近づいてくる。

東芝ブレイブサンダースは 1971 年にバスケットボール日本リーグ 2 部に加入し、1983 年に 1 部昇格を遂げた。その後、リーグ優勝 2 回(1999-2000, 2004-2005)、天皇杯優勝 3 回(2000, 2006, 2014) JBL トーナメント優勝 1 回(1997) という結果を残している。日本のトップリーグを牽引してきたチームの一つである。約 50 年間にもなる日本のトップリーグの歴史の中で、輝かしい戦績を残したチームがい

くつも存在した。しかし、前年度、最下位から翌年、準優勝をしたチームは 2012-2013 シーズンの東芝ブレイブサンダース(以降 東芝)しか該当しない。

【目的】

本研究は 2011-2012 シーズンの東芝と 2012-2013 シーズンの東芝の Box score と Play by play の数値情報を比較分析し、どのようなチーム編成や戦略に変化があったのか明らかにさせ、チームの成績を向上させる上での一助となることを目的とした。

【方法】

東芝の 2 シーズンにわたっての数値で特に差があるのは得点であった。得点に関連する、データを Box Score 及び Play by Play からスタッツ分析(飯野,2010)を行い収集し、分析項目を抽出した。Box Score から 27 項目(表 1)、Play-by-Play から 15 項目(表 2)とし、さらに Play by Play から個人のシュート傾向、割合の数値も抽出した。

【結果・考察】

2012-2013 シーズンの東芝ブレイブサンダースは2011-2012 シーズンの東芝ブレイブサンダースに比べ 2Pts area でのシュートに大きな差異が見られた。2Pts area の中でもペイントエリア内でのシュートが試投数、成功数、確率が大幅に増加していた。Outside Paint Area からのシュートの試投数、成功数は減少し Inside Paint Area からのシュート試投数、成功数は増加した。シュートの確率においては Inside Paint Area, Outside Paint Area, 3Pts Area 全てのエリアで増加したことから 2012-2013 シーズンはインサイドゲームを展開し成功した。個人で見ると Inside Paint Area からのシュートは新戦力の外国籍プレイヤーが試投数、成功数ともにチーム全体の約半分を占め Inside Paint Area でのシュート確率は 60%を超える結果となった。3P シュートにおいては新戦力の日本人プレイヤー試投数、成功数ともにチーム全体の 3 割を占め確率も 35%を超える結果となりインサイド、アウトサイドでオフェンスの軸ができたことが示唆された。JBL ではオンザコート 1 (1 チームの外国籍選手オンザコート出場数が一人) のルールが適用されていた。望月 (2010) は「一概には言えないが、身長や体の幅の他にも外国籍選手と日本人選手の間には差異のあるものが存在し、その差が日本と世界との競技レベルにも表れていると考えるこ

ともできる。」とし、日本人プレイヤーが身体的にも技術的にも外国籍のプレイヤーに劣っている。リーグ全体においてポストプレイヤーの中心は外国籍のプレイヤーであることから、インサイドゲームを行うには外国籍プレイヤーの存在を抜きには成立しないのである。

【結論】

JBL 東芝ブレイブサンダースの 2011-2012 シーズンのレギュラーシーズン 42 試合と 2012-2013 シーズンのレギュラーシーズン 42 試合を対象とし Box score. Play by play から抽出したデータを比較検証し、以下の結論を得た。

望月 (2010) は「一概には言えないが、身長や体の幅の他にも外国籍選手と日本人選手の間には差異のあるものが存在し、その差が日本と世界との競技レベルにも表れていると考えることもできる。」とし、日本人プレイヤーが身体的にも技術的にも外国籍のプレイヤーに劣っている。リーグ全体においてポストプレイヤーの中心は外国籍のプレイヤーであることから、インサイドゲームを行うには外国籍プレイヤーの存在を抜きには成立しないことがわかる。したがって、外国籍のインサイド・プレイヤーと 3P シュート能力に長けている日本人ペリメーター・プレイヤーの獲得がチーム編成上、もっとも重要になることが明らかとなった。